

## 小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

### 平成 25 年度 第 4 回小水力発電事業化検討チーム(荻窪用水)会議 会議概要

日時：平成 26 年 2 月 7 日（金）11:00～12:00

会場：小田原市職員福利厚生室

#### 出席者（敬称略）

- ・全国小水力利用推進協議会

事務局長 中島大

- ・小水力発電事業化検討チーム

秋山嘉一、綾部忠夫、大木勇二、木原康晴、志澤昌彦、鈴木大介、田嶋邦典、永井源太郎、西山敏樹

- ・小田原市事務局

エネルギー政策推進課長、エネルギー政策推進課副課長、エネルギー政策推進課係員 3 名

- ・オブザーバー

岩永修（小田原市 経済部 農政課）

古屋将太（特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所）

#### 概要

##### < 1 荻窪用水の事業化検討 >

- 昨年 11 月に行った山梨県北杜市への小水力発電所先進事例の視察を踏まえて、荻窪用水の小水力発電事業化についての意見を各委員から伺った。

#### 主な意見

- 北杜市の小水力発電所と比べ、荻窪用水は流量が少ない。
- 北杜市の小水力発電所は、山の中にあり人家から遠く、水を利用している者がいない区間を利用して発電を行っている。一方、荻窪用水は、人家も隣接し、農業用水や生活用水として水を利用している者が多数存在する。そのため、荻窪用水で小水力発電を行うことについて地元関係者の合意形成は非常に難しいのではないかと。水を利用している者は、発電所検討地点の下流にも多数存在するので、どのように合意形成を行うか検討が必要である。
- 昨年 12 月に東京電力の改修工事のため、荻窪用水の水を一時的に止めた。その時に、地元の方々から、水が流れていないことに対して多数の苦情が寄せられた。それを踏まえると、小水力発電所建設によって、荻窪用水の既存の流れを変えることについて地元関係者の合意形成は難しいだろう。
- 荻窪用水の小水力発電事業化は、技術的及び事業採算的にはある程度目途がつく。地元関係者との合意形成がもっとも重要である。
- 荻窪用水と荻窪川が合流する位置に滝のような 10m 程度の落差が確保できる場所がある。そこを活用すれば、既存の荻窪用水の流れを変更することなく小水力発電を設置できるので、合意形成が比較的得やすいのではないかと。
- 現在、荻窪用水の維持管理は、水利組合と自治会が協力して行っている。小水力発電所を

設置するとなると、水路の維持管理はどのように行うのか。

- 小水力発電所を設置することで、停電時において非常用電源として活用できる。また、発電により得られた収入の一部を水路の維持管理に回すことができるというメリットもある。
- 荻窪用水が地域のために作られた歴史的経緯を考えると、小水力発電所がどのような利益を地域に還元できるか説明することが合意形成で重要となる。地元が必要とされる小水力発電所となるように検討しなければならない。
- 合意形成に時間を要することが予想される。
- いつまでに何をやるのかスケジュールを示してから、検討すべきである。